

事故から一年以上が経ちました。

しかし私たちの息子・翼が帰ってくることはありません。

そしてこの一年間で事故の原因となった米軍人やその背景にある制度についても何ひとつ変わっていません。

国は米軍人に日本での運転許可証を発行しているながら事故を起こしても行政処分もなく、責任の所在を全て米軍基地側の判断に委ねています。

事故後も被告人は基地内で自由に運転を続け賠償も果たさないまま刑事裁判が終われば即り帰国させるという、あまりにも米国側に有利な仕組みが続いています。

被告人は葬儀の際、「この事故を重く受け止め、一生背負って生きていく」とおぼへちに言いました。また裁判では「借金をしてでも賠償して償いたい」とも言いました。

しかし判決後、一切連絡もなく、今どこにいるのかさえわかりません。自分で発した言葉の通り、じからの償いを果たしてほしいと強く思っています。

私たちは今回の言ひ言ふを通して国の責任を明らかにし、再発防止のための仕組みを整えてほしいと思っています。

息子の死を無馬太にせず、これ以上同じ悲しみを抱える家族が生み出さないよう真摯に向き合えていたいただきたいと強く望みます。